

# 船舶事故調査報告書

平成29年6月22日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突
発生日時	平成28年7月22日 10時50分ごろ
発生場所	香川県小豆島町地蔵埼西方沖 地蔵埼灯台から真方位255° 1.8海里付近 (概位 北緯34° 24.5′ 東経134° 12.0′)
事故の概要	プレジャーボート第三宝丸は、東南東進中、また、プレジャーボート88は、漂泊中、両船が衝突した。
事故調査の経過	平成28年7月29日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A プレジャーボート 第三宝丸、2.9トン 第280-31878号（船舶検査済票の番号）、個人所有 B プレジャーボート 88、5トン未満（長さ6.80m） 270-41275香川、個人所有
乗組員等に関する情報	A 船長A、二級小型・特殊・特定 B 船長B、二級小型
負傷者	なし
損傷	A 右舷船首部等に凹損を伴う擦過傷 B 左舷船尾部に亀裂等
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 東北東、風力 2、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 上げ潮の末期
事故の経過	A 船は、船長Aが1人で乗り組み、流し釣りを行っていたが、釣果が得られず、友人がいる南東方の釣り場に移動することとした。 A 船は、船首を東南東方に向けて発進し、約10ノットの対地速力まで増速したとき、船長Aが、船首方至近にB船を認めたものの、どうすることもできず、B船と衝突した。 船長Aは、右舷船首方の移動先の釣り場に目を向けていた。 B 船は、船長Bが1人で乗り組み、友人2人を乗せ、流し釣りの目的で機関を中立運転として船首を北西方に向けて漂泊していたところ、船長Bが、友人2人の叫び声で左舷至近に接近するA船を認めたが、どうすることもできず、A船と衝突した。 船長Bは、時々周囲を見渡ししながら釣りを行っており、A船が流し釣りを行っていることには気付いていた。
分析	A 船は、船長Aが、移動先の釣り場の方に注意を向け、船首方の見張りを適切に行っていなかったことから、前路で漂泊中のB船に気付かず、B船と衝突したものと考えられる。 B 船は、船長Bが、流し釣りを行っているA船に気付いていたもの

	の、周囲の見張りを適切に行っていなかったことから、A船が移動を始めたことに気付かず、A船と衝突したものと考えられる。
<b>原因</b>	本事故は、A船が東南東進中、B船が漂泊中、船長A及び船長Bが共に見張りを適切に行っていなかったため、両船が衝突したものと考えられる。
<b>参考</b>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 常時適切な見張りを行うこと。</li> </ul>